

苦戦した富士大会、木村選手は王座獲得に向けポイントを重ねる

B-Max Racing Team（チーム総代表・SFL チーム代表 組田龍司）は、7月15～16日、富士スピードウェイで行われた全日本スーパーフォーミュラ・ライツ選手権第10～12戦に参加し、チームとしては苦戦する場面が多かったものの、木村偉織選手が闘志溢れる走り、逆転でのチャンピオン獲得に向け確実にポイントを重ねました。

マスタークラスは、前大会欠場の今田信宏選手が3連勝。DRAGON 選手とのポイント差を13にまで開きました。

■第10,11戦予選（7月15日（土）午前8時20分～8時50分）

雲が多いもののコースは完全ドライ。気温も26度とさほど高くないコンディションのなか予選がスタートしました。木、金曜日に行われた専有走行では、B-Max 勢は好調とは言えない状況でしたので、やや不安を抱えての予選となりました。

第10戦の予選は、トムス勢が34秒台前半をマークして先行し、B-Max の各車が渾身のアタックでこれに食い下がりました。しかし、チームの最上位は、前回に続く代役参戦で53号車を駆る菅波選手の6位。木村選手7位、フラガ選手9位、ヴィダーレス選手は走路外走行でベストタイムが抹消となり12位という結果でした。

第11戦の予選は、早めにアタックを行った木村選手が、連続アタックにより着実にタイムを縮め2位と挽回しました。しかし、他の選手は大幅なタイムアップは果たせず、菅波選手6位、ヴィダーレス選手8位、フラガ選手9位でした。



	ドライバー	Rd10 予選タイム(順位)	Rd11 予選タイム(順位)	Point (累計)
50号車	木村偉織	1分34秒534 (7)	1分34秒159 (2)	0 (62)
51号車	D.ヴィダーレス	1分39秒211 (12)	1分34秒612 (8)	0 (11)
52号車	I.O.フラガ	1分34秒804 (9)	1分34秒624 (9)	0 (22)
53号車	菅波冬悟	1分34秒513 (6)	1分34秒409 (6)	0 (17)

天候：曇り、コース：ドライ、気温：26度、路面温度：27度

■第10戦決勝 (7月15日(土) 午後1時5分～21周)

朝からのどんよりした天候は、スタート時刻が近づいても変わることなく、予想よりも過ごしやすい天候のもと決勝がスタートしました。4番グリッドの古谷選手がスタートで大きく遅れたことで、B-Maxの各選手は1つずつポジションを上げますが、その後は縦に長い展開となりました。5位菅波選手、6位木村選手、8位フラガ選手、9位ヴィダーレス選手の順で、周回を重ねますが、7周目、ペースの上がないヴィダーレス選手は、追い上げてきた古谷選手に抜かれると、ピットに入ってレースを終えました。

13周目、菅波選手を追う木村選手が、1分35秒478と自身のベストラップを更新して少しその差を詰めましたが、2人のペースはほぼ変わらず、その後は一定の間隔を保ったまま5位、6位でチェッカーを受け、揃ってポイントを獲得しました。フラガ選手は終盤まで古谷選手を巧みに抑え込んでいましたが、20周目に前に出られてしまい9位でフィニッシュしました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
50 号車	木村偉織	6 位	1 分 35 秒 478 (5/12)	1 (63)
51 号車	D.ヴィダーレス	DNF	1 分 35 秒 953 (10/12)	0 (11)
52 号車	I.O.フラガ	9 位	1 分 35 秒 713 (9/12)	0 (22)
53 号車	菅波冬悟	5 位	1 分 35 秒 493 (6/12)	2 (19)

天候：曇り、コース：ドライ、気温：26 度、路面温度：31 度

■第 11 戦決勝 (7 月 16 日 (日) 午前 8 時 20 分～15 周)

スタートでは前に出られなかったものの、木村選手はトップの平良選手の背後につけチャンスを窺います。二人が交互にファステストタイムをマークしながら、後続を引き離し迎えた 10 周目、ここが勝負と見た木村選手は、1 コーナーのアウト側から平良選手に並ぶと、そのままコカ・コーラコーナー、100R まで並走し、ヘアピンで平良選手を攻略。手に汗握る攻防の末、ついにトップに躍り出ると、残り周回を逃げ切って歓喜の逆転優勝……のはずでしたが、木村選手にはレース後に蛇行運転をしたとして+5 秒のペナルティが課されることになり、優勝は幻となってしまいました。平良選手も走路外走行で+5 秒、3 位フィニッシュのトゥルーリ選手も車重が足りずに失格となりました。

また、1 周目に順位を上げ、5 位でフィニッシュしたヴィダーレス選手も、7 周目の古谷選手との接触が危険行為と判定され+30 秒のペナルティと、レース後に大きく順位が入れ替わる結果となりました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
50号車	木村偉織	2位	1分34秒939 (2/11)	7 (70)
51号車	D.ヴィダーレス	10位	1分35秒193 (4/11)	0 (11)
52号車	I.O.フラガ	4位	1分35秒393 (6/11)	3 (25)
53号車	菅波冬悟	7位	1分35秒673 (9/11)	0 (19)

天候：曇り、コース：ドライ、気温：26度、路面温度：29度

■第12戦決勝 (7月16日 (日) 午後4時35分～15周)

チャンピオン争いで遅れを取らないために、上位フィニッシュが必須の木村選手は、6番グリッドから1周目4位、6周目3位と着実にポジションアップ。さらに、チャンピオンを争う2位の平良選手を追い上げ、8周目に1.8秒あった差を、残り1週の時点で0.6秒にまで縮め3位フィニッシュ。ファステストラップも記録して、シリーズリーダー平良選手とのポイント差を射程圏内の7ポイントにとどめました。

スポット参戦ながら堅実な走りを見せた菅波選手は5位。この週末苦戦を強いられたフラガ選手は8位、歯車の噛み合わないレースが続いているヴィダーレス選手は10位でした。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
50号車	木村偉織	3位	1分35秒346 (1/12)	5+1 (76)
51号車	D.ヴィダーレス	10位	1分35秒996 (10/12)	0 (11)
52号車	I.O.フラガ	8位	1分35秒978 (9/12)	0 (25)
53号車	菅波冬悟	5位	1分35秒833 (6/12)	2 (21)

天候：曇り、コース：ドライ、気温：25度、路面温度：30度

■50,51 号車チーム監督 高木真一コメント

偉織選手は、予選 1 回目は前大会同様、上手くいきませんでした。クルマが路面状況に合っていなかった部分はありましたが、1 回目の予選は非常に重要ですので、これは次に向けての課題です。2 回目はきちんとアジャストできて良かったと思います。

第 10 戦の決勝は 7 番手から堅実に走ってポイント獲得できました。第 11 戦は落とせないレースでしたが、前車に近づくことができるセットアップを施して、平良選手と非常に良いバトルを繰り広げることができました。ペナルティで 2 位になりましたが、これはチームもドライバーも、ルールを厳格に運用できなかったことを大いに反省しなければなりません。第 12 戦は冷静にポジションを上げて 3 位を得ましたが、優勝に匹敵する価値のある内容だったと思います。

デビッド選手は、第 10 戦の接触によるペナルティで流れをつくり損ねてしまった感じがします。予選結果を踏まえ、3 レースを如何に組み立てるかをイメージして、レースに臨むことが必要です。今回、大津選手が急きよ SF に参戦することになって、アドバイザー不在となってしまったのも影響したかもしれません。シリーズも終盤に入りますが、次の岡山では立て直してくれると思います。

■52 号車チーム監督 松浦孝亮コメント

予選、決勝ともに、セクター 2 はトップと同等の速さを見せることができたのですが、セクター 3 で好タイムを刻むことができずに遅れをとってしまいました。この週末はそこがすべてだったように思います。セットアップをいろいろ変えましたが、ドライバーのフィーリングが良くなってもタイムには結びつかず、迷路から抜け出せなかったという感じでした。やはり、特性の異なるセクションを持つ富士では、ドライバーが 1 周に渡って攻めきることのできるセットアップ、そしてドライビングについても工夫が必要だと思います。

次戦はタイプの違う岡山ですので、予選で上位に入って、表彰台圏内でレースを進められるよう準備したいと思います。

■50 号車ドライバー 木村偉織選手コメント

この週末は、専有走行からあまりペースが良くありませんでした。新しいヨコハマタイヤも去年のものとはフィーリングが違う部分があって、それに対するセットアップやドライビング面での対応が、ライバルチームに対して遅れてしまっていたように思います。

ただ、レース2、レース3では、かなり良いセットアップも見つかり、レース内容も納得できるものでしたので、次の岡山に向けて非常に手応えを感じる終わり方ができました。

シリーズを勝ち抜くためには、個人としてはもちろんですが、チームとしてももっとレベルアップをしなければならないと感じました。ポイント差は最小限に抑えることができましたので、残る6レースでベストを尽くします。

■51号車ドライバー デビッド・ヴィダーレス選手コメント

結果だけ見ると難しい週末でした。以前からクルマのバランスが悪かったので、佐々木選手にもチェックしてもらい、金曜日にシャシーを交換しました。ただ、交換後もすぐにすべてを上手く機能させることは簡単ではありませんので、予選では十分なパフォーマンスを発揮することができませんでした。後方グリッドからのスタートでは結果は望めませんでした。決勝のペースが良かったことは明るい材料です。ようやく勝負できるクルマになりましたので、次の岡山に向け最大限の努力をします。

■52号車ドライバー イゴール・オオムラ・フラガ選手コメント

今大会は、専有走行からリアのグリップ不足に悩んでいて、特に中低速コーナーの続くセクター3でタイム差が生じていました。この改善ができないままに予選を迎えることになり、上位グリッドを得ることはできませんでした。最後のレースは、リアのセットをガラッと変えて臨みましたが、やはりその差は変わりませんでした。今大会は、唯一レース2で4位を得たことがポジティブな出来事でした。次の岡山大会も中低速のコーナーが多いので、今回の課題を解決して臨みたいと思います。

■53号車ドライバー 菅波冬悟選手コメント

鈴鹿大会に続いてのスポット参戦になりましたが、まずは参戦できたことを感謝しています。今回は前回と同等の成績を通常のコンディションのなかで獲得すること、そしてトムス勢の前でフィニッシュしてチームに貢献することを心掛けて臨みました。

予選、決勝と思い描いたような結果ではありませんでしたので、不完全燃焼というのが正直なところです。とはいえ、レース1と3は現状のなかでやり切った感があるので、ベースとなる部分……クルマを仕上げる能力やコンディションに適応したドライビングなどについて、もっと力をつけないといけないと感じました。ただ、自分自身、成長は実感していますので、また参戦のチャンスをいただけるよう頑張ります。

マスタークラス

■第 10,11 戦予選

前大会欠場の今田選手が戻り、今回は畑選手が欠場したことで、予選からチャンピオンを争う今田選手と DRAGON 選手の一騎討ちとなりました。

第 10 戦は、DRAGON 選手が連続アタックで 1 分 36 秒 285 、今田選手は 3 ラップ連続でアタックして 1 分 36 秒 229 を叩き出し、僅差ながら今田選手に軍配が上がりました。

第 11 戦は、両者ともに同様の連続アタックでタイムアップ。今田選手が 1 分 35 秒台に入れて、DRAGON 選手を突き放す結果になりました。

	ドライバー	Rd10 予選タイム(順位)	Rd11 予選タイム(順位)	Point (累計)
4 号車	今田信宏	1 分 36 秒 229 (M1)	1 分 35 秒 727 (M1)	1+1 (57)
30 号車	DRAGON	1 分 36 秒 285 (M2)	1 分 36 秒 186 (M2)	0 (54)

■第 10 戦決勝

スタートで DRAGON 選手が前に出ますが、2 周目に今田選手がクラストップの座を奪い返し、5 周目まで両者はテール・トゥ・ノーズの攻防を見せました。その後は今田選手が少しずつ差を開き、10 周目には 2.8 秒のリードを築きました。とはいえ、今田選手も必死に逃げており、11 周目には走路外走行が複数回あったとして、警告の黒白旗が提示されました。それでも最後まで今田選手はペースを落とすことなく、最終的に DRAGON 選手に 4 秒の差をつけてフィニッシュしました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
4号車	今田信宏	M1位 (総合10位)	1分36秒688 (M1)	10+1 (68)
30号車	DRAGON	M2位 (総合11位)	1分36秒970 (M2)	7 (61)

■第11戦決勝

今田選手は不調だったエンジンを交換したことで、最後尾からのスタートとなりましたが、1周目にクラストップに立ち、逃げの態勢を築こうと DRAGON 選手を引き離しにかかります。しかし、第10戦とは異なり、DRAGON 選手は今田選手の背後にぴたりとつつけ、6周目の1コーナーではインから前を出ようと試みるなど、緊迫した状態のままレースは進みました。結局、最後まで両者ともにミスをおこすことなく、僅差のままチェッカーを迎えますが、ファステストは DRAGON 選手が奪いました。



	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
4号車	今田信宏	M1位 (総合8位)	1分36秒526 (M2)	10 (78)
30号車	DRAGON	M2位 (総合9位)	1分36秒496 (M1)	7+1 (69)

■第12戦決勝

レース序盤、両者は前2戦よりさらに白熱した戦いを見せ、3周目の1コーナーで DRAGON 選手が先行する今田選手を抜くと、7周目には今田選手が再逆転するなど、スタートから激しく競り合いました。8周目以降は、速さに勝る今田選手が差を広げ、この週末3勝目、今季通算6勝目のチェッカーを受けました。



Press Release

2023.7.21



B-MAX ENGINEERING 株式会社 MS 事業部
252-1107 神奈川県綾瀬市深谷中 8-8-2
TEL 0467-39-5960 / FAX 0467-39-5940
<http://www.b-maxracing.co.jp/>

この結果、今田選手 89 ポイント、DRAGON 選手 76 ポイントとなり、マスタークラスのタイトル争いは、次の岡山大会が天王山になりそうな気配です。

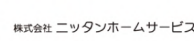
	ドライバー	決勝順位	ベストタイム (順位)	Point (累計)
4号車	今田信宏	M1 位 (総合 11 位)	1 分 37 秒 416 (M1)	10+1 (89)
30号車	DRAGON	M2 位 (総合 12 位)	1 分 37 秒 824 (M2)	7 (76)

■4号車ドライバー 今田信宏選手コメント

狙いどおり 3 勝できて良かったです。できることならレース 2 のファステストも欲しかったですね。でも、DRAGON 選手が、同じ条件で勝負をするために、前回の鈴鹿大会を総合クラスで参戦してくれましたので、それに対する自分なりの恩返しとして、今大会は最後まで精一杯出し切りました。とはいえ、少しでも気を抜くと DRAGON 選手にやられてしまいますので、最後まで一切手抜きはできないというのが実情です (笑)。

■30号車ドライバー DRAGON 選手コメント

自分としてもやり切ったレースでした。今田選手に少しずつ負けている部分があって、それが結果に表れたということです。抜きつ抜かれつの場面もありましたし、お互いに楽しんでレースができていますので、これがジェントルマンレースのあるべき姿だと思います。もちろん、楽しさのなかには、悔しさもあるわけですので、次の岡山ではやり返そうと思っています。





Press Release

2023.7.21

B-Max Racing Team

B-MAX ENGINEERING 株式会社 MS 事業部
252-1107 神奈川県綾瀬市深谷中 8-8-2
TEL 0467-39-5960 / FAX 0467-39-5940
<http://www.b-maxracing.co.jp/>

